

(社) 日本原子力学会  
第 95 回倫理委員会議事要旨

日 時 平成 29 年 1 月 24 日 (火) 13:30～17:30  
場 所 三菱重工業品川ビル 3 階 305 会議室  
出席者 大場委員長、三村副委員長、宇奈手幹事、伊藤委員、神谷委員、出町委員、中野委員、中村委員、原田委員、福家委員 (10 名：委員名簿順)  
北村氏、作田氏 (オブザーバー)

配布資料

- 資料95-1：第94回倫理委員会議事要旨(案)
- 資料95-2：倫理委員会の取り組みに関するタスクチーム議事録
- 資料95-3：2017年春の年会企画セッション関連資料
- 資料95-4：2016年度倫理研究会関連資料
- 資料95-5：倫理規程見直しに関する資料
- 資料95-6：再稼動に係る審査、承認の事例集に関するタスクチーム議事録

議事

1. 資料 95-1 により、前回議事要旨 (案) を確認し、了承された。
2. 資料 95-2 により倫理委員会の役割と今後の活動について、12/14 に実施したタスク会合での検討結果を基に協議を行い、以下の通り多くの意見が出された。本日の協議結果を踏まえつつ、今後、資料中の表 1 を具体的な活動内容に落とし込んでいくこととする。
  - ・ タスク会合の議事録 3(1)に記載されている“規制に対する問い掛け”は問い掛ける方法と程度が難しい。
  - ・ 当委員会が意思表示する手段は学会誌への掲載、ポジションステートメントとしてのとりまとめ、当委員会 HP への掲載、の 3 種類の手法が考えられ、表明する範囲と内容により適宜選択することが妥当。但し、当委員会の HP は存在そのものを知らない可能性があるため、より多くの方に知って頂くことを考えることも必要。
  - ・ 各人は日本原子力学会の倫理規程よりも、一義的には自身の組織の倫理規程類に従うことになる。従って、当委員会としては当学会のものと各組織のものとを比較することにより浸透度合いを確認する必要があるのではないかとの意見も出たが、各組織の幹部の多くは当学会の会員であることから、学会員に浸透させることで各組織の倫理規程等にも展開されるものと考え、取り組んで行くものとする。
  - ・ その他の浸透方法として、学会誌に規程を解説するシリーズを掲載することや当学会入会時に倫理規程を一読させること、また学会メールに注記することなどのアイデアが出された。
3. 資料 95-3 により 2017 年春の年会企画セッションの準備状況について確認し、以下の議論が行われた。なお、日程は 3/27 で確定。
  - ・ 日本学術振興会では社会の受容性を向上するために必要な技術とリスクコミュニケーションが扱われているが、リスクコミュニケーションの一端として技術者が信頼されるべきであり、その視点も講演に含めることを検討願いたい。
  - ・ 一般の方に参加頂き、率直な意見を頂くことで受容性における倫理の役割を考えることとしているが、意見を言ってくれる一般の方に如何に参加してもらうかという観点で仕

掛けが必要。まずは、原子力以外の大学の先生、学生などを中心に広く呼びかけることとする。

4. 資料95-4により2016年度倫理研究会の準備状況について確認、協議した。
  - ・ 協議の結果、今回の研究会において取り扱う事例は、事例2“非常時に向けた備え、基盤づくり”と事例5“安全確保に対する姿勢”に決定。
  - ・ 本日、学会事務局から学会員に対して案内のメールを発信しているが、より多くの参加者を募るために技術倫理協議会にも委員長から案内を出す。
  - ・ 研究会受講前後の、受講者の意識の変化を計測することで、現状の学会員の倫理に対する浸透度が図れること、また研究会運営改善の切掛けが得られることなどが期待できる。
  - ・ 協議の結果としてアンケートを準備することとした。なお、アンケートは受講者が持ち帰り、各組織に展開できるようなワークシート形式のものと、当研究会のデータとするためのものとする。
5. 資料95-5に基づき倫理規程見直しに関する協議を実施した。協議により以下のようなコメントが出たが、更なる検討が必要であることから次回委員会を時間延長にて実施し、その中で集中的に検討することとした。
  - ・ 前文に対して追加提案の有った“他者の意見に耳を傾け”は他の記述に同じ意味が含まれていることから追加不要。
  - ・ 前文に対して、マネジメントシステムへの反映など組織としての環境整備が有効という記載は詳細過ぎるので、憲章7の行動の手引きに移行する方が良い。
6. 資料95-6により再稼動に係る審査、承認の事例集に関する協議について、12/14に実施したタスク会合での検討結果を基に協議を行い、以下の通り多くの意見が出されたが、更なる検討が必要であることから再度タスク検討会を開催することとした。
  - ・ 電気事業者、規制など、それぞれ立場が異なることから、問題提起はできるものの価値中立でポジションを示すことは難しい。
  - ・ より良い議論のための提言というポジションであるべき
7. 次回のタスク会合はH29年2月10日(金)14:00～(場所未定)、倫理委員会はH29年3月16日(木)10:00～(場所未定)とした。

以上